

石田俊樹医師、鮎澤香看護師、友田光一さんが  
「第15回茨城放射線腫瘍研究会」にて優秀演題賞を受賞

2月24日（土）、茨城県内の放射線治療の発展を目的に、放射線治療に従事する医師や看護師、技師等で組織される「第15回茨城放射線腫瘍研究会」がつくば国際会議場にて開催されました。石田俊樹医師、鮎澤香看護師、友田光一さん（筑波大学大学院 人間総合科学研究科）がそれぞれの部門において優秀演題賞を受賞しました。

また、特別講師として国立がん研究センター中央病院放射線科の伊藤芳紀先生、公益財団法人がん研究会有明病院放射線治療部の吉岡靖生先生をお招きいたしました。

今後も県内の放射線治療の発展に向け、大学附属の医療機関ならではの高度な治療の検討とともに、県内放射線腫瘍医、医療従事者との連携強化を行ってまいります。

医療部門「放射線治療が奏功した Solitary fibrous tumor (SFT：孤立性線維腫瘍)の1例



左：奥村敏之病院教授 中央：石田俊樹医師 右：櫻井英幸教授

看護部門「膈内照射時の疼痛管理プログラムを立ち上げて」



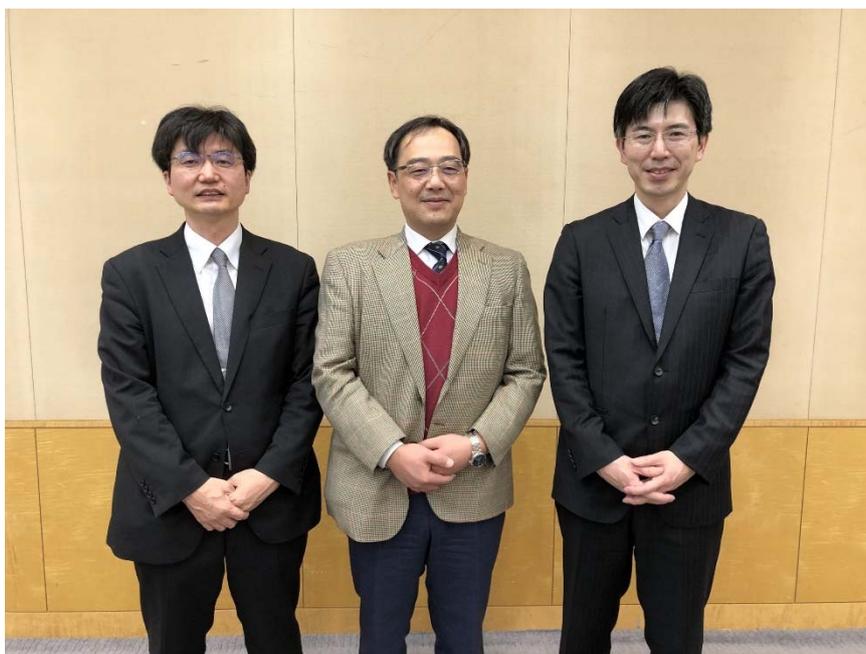
上段左から、伊藤看護師長、鮎澤看護師、北島看護師、兼子看護師、早川看護師

技術部門「マーカーレス腫瘍追跡のための Deep Learning 用画像作成方法の改善」



左から石川教授、筑波大学大学院 人間総合科学研究科 友田さん

特別講演講師



左：伊藤芳紀先生 中央：石川仁教授 右：吉岡靖生先生